

春になると書店には桜の本を代表する桜の名所としての弘前城は、日清戦争の勝利を記念し、旧土族の内山覚弥がソメイヨシノを百本植えたのがはじまりである。近世までの弘前城は松の海に浮かぶ天守閣であった。前近

京都の桜の名所には、近世から名所図会などに登場する所と、近代になって新たに植樹された所がある。前者には嵐山、仁和寺(御室)、平野神社、花の寺(勝持寺)、向日神社など、後者には植物園、賀茂川堤防沿い、岡崎公園、洛西ニュータウン小畑川沿いなどがある。

文化

にはソメイヨシノが植えられている。ソメイヨシノは、葉と花が萌え出る山桜と違って、花だけが枯れ木に咲き豪華である。幕末に江戸近郊の染井村で、オオシマザクラとエドヒガンザクラを掛けあわせて創りだされた品種といわれる。実生から育つ山桜と違って、接ぎ木で増え、根づく率が桁違いによく、数年で成長し花が咲く。

ソメイヨシノが植えられている堤防、城跡、公園、小学校、またかつての軍隊の施設などは、二十世紀につくりだされた景観である。たとえば日

近代が変えた桜の景観

歌、由緒の世界から国の象徴へ 高木 博志

西行の歌
山桜の
花は
あはれ
な
ら
ん



『拾遺都名所図会』に西行の歌とともに描かれた西行桜

たかぎ・ひろし氏 1
959年大阪府生まれ。立命館大学大学院博士課程修了。著書に『近代天皇制の文化史的研究』など。



して地方で積極的に選びとられたのだと考えられる。実は、桜並木、すなわち群として桜を植樹するのは、十八世紀の享保期、吉宗の時代に始まった江戸・東京地域の文化なのである。

ろう。

代は貴族的で女性的なものであり、武士の闘いの場である城郭には常緑の松がふさわしかった。遠山の金さんがドラマで、桜吹雪のもろ肌をみせて見得を切るが、あの男性的な桜イメージは二十世紀のもので、近世ならお笑いものであった

た。ソメイヨシノが植えられていた。ソメイヨシノは、葉と花が萌え出る山桜と違って、花だけが枯れ木に咲き豪華である。幕末に江戸近郊の染井村で、オオシマザクラとエドヒガンザクラを掛けあわせて創りだされた品種といわれる。実生から育つ山桜と違って、接ぎ木で増え、根づく率が桁違いによく、数年で成長し花が咲く。

る。

国宝姫路城では一九一二年の姫山公園開園以降にソメイヨシノが植えられた。その他、角館の検木内川堤は一九三三年の護岸工事と皇太子の誕生祝い。長浜市の豊公園は一九一四年の大正御大典事業の植樹。大和郡山の城址公園は一九一一年に山桜などからソメイヨシノに植え替えられる。

定教科書に登場し、ナシヨナリズムの高まりとともに朝鮮をはじめ植民地にも植ええられる。爆発的な普及の理由は、ソメイヨシノが東京からやってきた「近代」「文明」と

他方、京都では近世以

来のしだれ桜・山桜など伝統種を重んじる気風があった。嵐山石岸、法輪寺の南の西行桜は、天明七(一七八七年)の『拾遺都名所図会』に「ながむとて花にもいたく馴れぬれば、ちるわかれこそ悲しかりけれ」といって『新古今和歌集』の西行の歌とともに記憶され、西行桜の下には歌を詠む風流人が描かれる。つねに桜は西行の歌とともにある。

『都名所図会』(安永九一七七八〇年)の嵐山の項は、鎌倉時代末期の後宇多院の「あらし山」れもよしのやうつすらん、桜にかかる滝の白糸」という歌を引き、吉野か

ら移された由緒を伝える。また菊亭家の築地の名所が、いまだ報じられる。円山公園のしだれ桜は、近世には八坂神社の神宮寺の寺桜であった。

子なれば、嵐山・御室等は来る廿四五日が最上な「らん」と桜の便りを寄せよシノが確実に植樹されるのは大正期である。岡崎の動物園は一九〇〇年の大正天皇成婚を記念し開園するが、一九〇四年にソメイヨシノの苗木六本を東京に注文し、一九一〇年四月には観桜会を催す。植物園の桜は、一九一五年大正天皇即位を記念し開園して以降のものである。大正大札記イヨシノはモダンな景観としてふさわしいものであった。

西国街道に面した向陽尋常小学校の正門向わきにソメイヨシノが植えられるのも、昭和初年。かくして桜の入学式がはじまる。(京都大学助教授・日本近代文化史)

京都市外の向日町を例にとれば、近世以来、八重桜などの名所だった向日神社にソメイヨシノの参道が整備されるのは一九三二年(図説 20世紀のむこうまち)。また新大阪鉄道株式会社が一九二八年以降開発する西向日住宅には、ソメイヨシノが街路樹として植えられた。浄水場完備の先端をゆく郊外住宅に、東京からやってきたソメイヨシノはモダンな景観としてふさわしいものであった。

十七世紀の後水尾天皇があまりの美しさに車を返してめでた物語とともにある。

一八八五(明治十八)年四月一六日の『日出新聞』は「洛東八坂神社の東林にある絲垂桜は明日此が好時機、また洛北平野神社の絲垂も今が真盛り、その他の山桜は一向日のうちに咲ひそむる容

一八九五年の遷都千百年事業の鴨東開発以後、疎水や動物園にソメイヨシノが植えられる。疎水

東側の開発にともなって成立する。

近代文化史